

学習指導要領全面実施に伴う通知表「けやき」の観点の改訂について

今年度から新しい学習指導要領が全面実施されています。学習指導要領とは、これからの社会の在り様を見据え、その中で子どもたちが「生きる力」を身に付けていくための学習の目標・内容を示したものです。今回は、学習の目標・内容が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で整理されています。これに伴って通知表「けやき」も3観点から子どもたちの学習状況を診てお知らせするようにします。保護者の皆様のご理解をお願いいたします。

<各教科の観点について>

	各 観 点 の 趣 旨	評 価 方 法 等
知識・技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。	単元テスト等により学習した知識の理解習得を問う問題を行います。また、児童が文章・式・グラフ等で説明したり観察・実験をしたり等、実際に知識や技能を用いる場面を設けて、多様な方法を適切に取り入れていくことも行っていきます。
思考判断表現	知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。	単元テストのみならず、レポート等の作成や発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れて、評価方法を工夫します。
主体的に学習に取り組む態度	知識・技能を獲得したり思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する等、学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという側面を評価します。 観点別評価には示しきれない児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、普段の授業の中で児童に伝えていきます。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や児童による自己・相互評価の状況を、評価する材料として用います。その際、児童の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行います。

※ 外国語活動（3・4年）と総合的な学習の時間（3～6学年）は、3観点に即して児童の学習状況を見取り、文章でお伝えします。

<道徳科の評価について>

道徳科の趣旨からすると観点別評価は妥当ではありません。児童に考えさせることを明確にして「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」という学習活動における児童の取組状況を、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取り、文章でお伝えします。

<保護者の皆様へ>

本校では、子ども一人一人の育ちや学びの様子を、前述の3観点から長期的な見取りを通して評価するという考えから、10月と3月に通知表をお渡ししています。私たちは、子ども自身が保護者の皆様と一緒に学習を振り返り、次の学習に向かうことができるようにと願って作成しています。保護者の皆様におかれましては、お子様のよい点をさらに伸ばすとともに、改善に向けて具体的に取り組むことができるようにするためにご活用ください。